

いんげんの露地栽培

<作型> ●：播種 つるなし収穫期：□ つるあり収穫期：■

5月	6月	7月	8月	9月	10月
●		□	■		
				□	■
		●			

<品 種>

つるあり種：スーパーステイヤー、つるありモロッコ、ブロードウェイ、シャルルなど

つるなし種：サロン、ロマノ、サロンなど

<畑の準備>

(1) 畑の選び方

連作すると、成長不良となるので2～3年の休栽期間を置く。また、土壌は排水良好で作土の深い、肥沃な植壤土がよい。

(2) 土づくり

いんげんは酸性に弱いので、pH6.0～6.5に矯正する。いんげんは、マメ科野菜で根粒菌が着生するので、窒素分は少量でよいとされているが、いんげんは、マメ類の中で、肥料を必要とし窒素が多い方が収量は多い。

施肥例（10aあたり）

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	3,000kg		
苦土石灰	150kg		
苦土重硝酸	40kg		
豆化成550号	120kg		
燐硝酸加理S604		80kg(40kg)	()はつるなしの場合

<播 種>

(1) 播種量

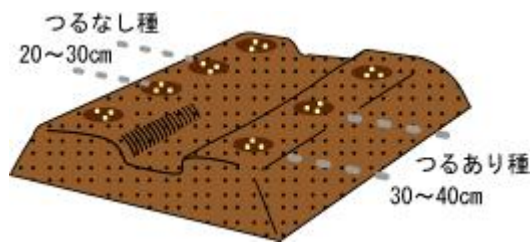
10a当たりつるあり種3,000～4,000ml。つるなし種6,000～8,000ml必要。

(2) 播種方法

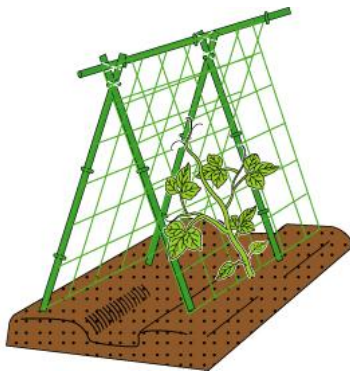
種子消毒（オーソサイド水和剤50に粉衣）した種子を肥料に直接触れないように間土し、1ヶ所2～3粒まきとする。

(3) 栽植密度

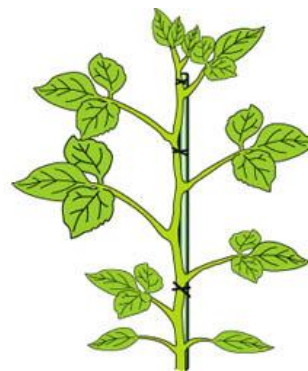
	うね幅	株間
つるあり種	180cm	30～40cm
つるなし種	60～70cm	20～30cm



(4) 支柱たて



つるあり種



つるなし種

<播種後の管理>

(1) 間引き



本葉2～3枚になったら
生育の良い苗を残して
2本に間引く

(2) 中耕、追肥

追肥は、つるあり種では、開花始め頃から2週間位の間隔で行う。つるなし種は、播種後30日頃とその後2週間位に2回行う。肥料は、燐硝安加理S604号などを施し、中耕、土寄せを兼ねて行う。

(3) 整枝

つるあり種では、第1～3節までの側枝を整理する。また、ネット栽培では、親づるがネットの8割位まで伸びたら摘芯する。また、つるなし種は放任とする。

(4) 乾湿害の防止

いんげんは、湿害や乾燥に弱いので、排水対策や灌水、敷きわらなどを行い、湿害や乾燥を防止する。

<病虫害防除>

(1) かさ枯病：6月下旬以降に風雨が多いと発生しやすい。発生がみられたら、被害株を抜き取る。

(2) 菌核病：茎葉が繁茂し、風通しが悪くなると発生しやすい。ロブラール水和剤等の1,000倍液を散布する。

(3) 炭そ病：夏期、高温多湿条件の時に発生しやすいので、ビスダイセン水和剤500倍液を散布する。

(4) アブラムシ類、フキノメイガ：生育中にエルサン乳剤1,000倍液等を散布する。

<収穫・収量>

播種後60～70日、開花後約2週間で収穫ができるようになるので、あまり大きくならないうちに収穫する。

収量は10a当たりつるあり種で1,200kg、つるなし種で1,000kg位です。

